

＜「方法」と「新・方法」＞講義立会記

匿名希望

「方法」が終焉を迎えた2004年末から「新・方法」が登場する2010年前半までの美術家中ザワヒデキの活動記録を知ること、私は「方法」と「新・方法」の二つの主義の立会人となった。2005年には芸術特許のレクチャーをし、2006年には二項対立論者の美術家としての展示を行い音楽作品集も発売し、2007年には朝日新聞日曜版で「脳で見るアート」の連載を始め方法カクテルの再演も行い、2008年にはニューヨークでグループ展、沖縄での個展を開催、20年ぶりとなる手書き絵画や27年ぶりとなる油彩への挑戦(自らの80年代のころの作風への回帰、大転換)もあり、2009年には方法主義で共に活動した三輪眞弘、松井茂らと「今日の方法芸術」の実演、中ザワ発明の芸術のデジタル塑造の特許が米国の会社に売却されたことを記念した個展、2010年前半には『芸術特許』の書籍刊行、草間彌生との二人展等が行われた。「新旧方法主義」における一つの節目である2010年中ザワの年賀状には、「方法主義10周年 バカCG20周年」と書かれていたことから、旧方法主義の継続性がうかがえる。

「方法」、「新・方法」に共通する要素は同語反復である。しかし中ザワが脱退した後に「新・方法」第3宣言において広辞苑掲載の語句の同語反復が発表されたことは、単なる同語反復の羅列を中ザワが自らの芸術活動として容認しなかったのではないかと推測することもできる。一立会人としての意見を言わせていただくとすると、中ザワが「方法」において機関誌の発行を終らせたのが「方法」の終末を意味するわけではなかったように、「新・方法」における中ザワの脱退も、決して「新・方法」主義的思想からの完全な脱却を意味するわけではないと思われる。

中ザワヒデキが今後2020年にでも新たな主義を提唱するかどうかはわからないが、彼らの芸術活動が1990年代以降の現代美術に大きな足跡を残し続けているということが言える。

参考文献

http://aloalo.co.jp/nakazawa/index_j.html

http://aloalo.co.jp/method/index_j.html

<http://aloalo.co.jp/nakazawa/newmethod/nj.html>

<http://aloalo.co.jp/nakazawa/indexpast/indexpast.html>